

①プログラムの自己点検・評価結果

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
プログラムの履修・修得状況		令和6年度は、昨年度に引き続き履修対象を文系・理系を問わない全学開講科目として展開し、昨年度と同様に多くの学生が履修した。最終的に、349名の履修となり、単位修得者は329名であった(修得率94%)。履修率のさらなる向上を目指し、入学時の説明資料やシラバスへの記載などにより、積極的なプログラムの周知を行っていく。また、ホームページ上でも関連する情報にアクセスができるよう内容の整備を進めていく予定である。
学修成果		データサイエンスリテラシーの学修効果については、本学で行われている他の科目と同様に授業評価アンケートを実施し、また毎回の小テストや最終試験などにおいても個々の学生の理解度や学修状況の把握に努めた。授業評価アンケートの結果は以下のとおりであり、新しい知見やものの考え方を修得できたことが確認できた。 問：あなたは、この授業を受けて新しい知見やものの考え方を修得しましたか。 「はい」71.15%、「どちらかと言えばはい」24.36%、「どちらとも言えない」3.85%、「どちらかと言えばいいえ」0.32%、「いいえ」0.32%
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度		授業評価アンケートの結果は以下のとおりであった。計96%の学生は理解できており、内容の理解度は問題ないと言える。 問：あなたにとってこの授業の難易度はどの程度でしたか。 「いくら努力しても理解できない程度」0.96%、「かなり努力すれば理解できる程度」8.33%、「努力すれば理解できる程度」47.12%、「少し努力すれば理解できる程度」38.78%、「努力しなくても理解できる程度」4.81%
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度		直接的に後輩等他の学生への推奨度を取得してはいないが、授業評価のコメントなどからも概ね内容に関し好感度の高い講義であることがうかがえる。教室の大きさなどの関係から基本的には1年生科目として開講しているが、1年時に履修しなかった学生からも、内容に興味を持ち来年受講が可能かなどの問い合わせも受けている。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況		令和5年度に全ての学群との時間割調整を行い、できる限り多くの学生が履修可能となる開講時間としたが、令和6年度においても完全に他の科目との重なりを避けることができなかった。ただし、履修率は33%で履修者数・履修率の向上に向けた計画時の数値を達成することができた。令和7年度は試験的に、より柔軟な履修が可能となるよう全ての学群の時間割を念頭に置いた上で、重複を避ける時間が必ず存在するような開講時期を設定した年2回の授業開講を行う予定である。
学外からの視点		
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価		本教育プログラムで提供する授業科目は1年次配当科目であり、また本プログラムは令和5年度から開始したため、修了者の進路、活躍状況、企業等の評価に関する自己点検・評価はまだ行えていない。次年度以降、進路や活躍状況の把握・分析に努め、また企業等からの意見を聴取していく。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見		高知工科大学数理・データサイエンス・AI教育プログラムの核となる、データサイエンスリテラシーの講義を担当する教員が中心となり、講義の一部を担当する産業界の人間であるゲスト講師からの意見聴取をはじめ、令和6年度からは数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムに参加することで、より多くの大学での事例や産業界からの意見を調べることで、プログラム内容や手法に反映している。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		講義の一環として、データサイエンスやAIを活用している第一線の情報系企業より講師を招き、その中で学生と一緒に考えていくなど、より積極的な学びを得られる構成としている。また技術だけでなく経営の面からも、今後自分たちがどう向き合っていくかという観点について、同様に特別講義として大手企業の社長に講演を依頼し、学生からは様々な感想を得ることができた。引き続き、授業評価アンケート結果等をもとに、授業改善を行う。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載		授業内容や方法、水準、教え方に関しては、授業評価アンケート結果をもとに点検・評価し、改善に努めている。加えて、学生から授業ごとに記述式アンケートをとるなどにより、授業改善を継続的に行っていく。一方で、より意欲のある学生に対して追加的な課題を出すなど、学びに対する要求にも応えられる内容としていく。 令和6年度には講義内容として生成AIについての項目を拡充し、技術紹介だけでなくとどまらず実社会での応用例なども踏まえた講義内容へと改善している。

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和5年度		令和6年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
システム工学群	765	170	680	120	114	36	35	156	23%
理工学群	398	100	370	15	11	41	34	56	15%
情報学群	437	100	400	108	93	108	101	216	54%
データ&イノベーション学群	62	60	60	118	108	62	62	62	103%
経済・マネジメント学群	702	160	640			102	97	220	34%
合 計	2,364	590	2,150	361	326	349	329	710	33%